

朝日新聞記者 中山由美

<プロフィール>

朝日新聞 南極・北極専門記者（ネットワーク報道本部）。南極へ3回、北極へ8回、パタゴニアやヒマラヤの氷河も取材し、地球環境を探る“極地記者”。

青森支局、つくば支局、外報部、科学部、特別報道部を経験。外報部時代に、2001年9月11日の同時多発テロ実行犯の生涯を追って、ドイツや中東を取材。長期連載「テロリストの軌跡」（2002年度新聞協会賞受賞、単行本は草思社）を担当した。

<南極>

2003年11月～2005年3月、女性記者で初めて南極観測隊に同行して越冬した。45次隊では越冬の後半、昭和基地から雪上車で1カ月、1000キロ遠征し、マイナス60度のドームふじ基地に暮らし、氷床掘削を取材した。

2009年11月～10年3月、51次隊で南極を再訪。セールロンダーネ山地地学調査隊と氷上で40日間暮らし、報道で初めての隕石探査の取材に成功した。

2019年11月～22年2月、61次隊で南極越冬。大陸内陸のみずほ基地へ遠征、越冬中に昭和基地や大陸でドローン撮影をした。

<北極>

グリーンランドを5回取材。2008年夏に米国観測チームに同行、12年夏と14年冬は日本人研究者の氷河や海氷の観測、15年春はエスキモーの犬ぞり猟に同行し、17年7月にグリーンランド内陸標高2700mで氷床掘削を取材した。16年1月はノルウェー北部のスバルバル諸島などを取材、18年7月は北極圏・グリーンランド沖、23年夏は北極海へ。

2011年3月の東日本大震災では岩手など津波被災地で半年、取材。岩手や福島で潜水取材をした。連載「プロメテウスの罠」（2012年度新聞協会賞、早稲田ジャーナリズム大賞）ではシリーズを4回担当。放射能観測が妨げられた実態を暴いた「観測中止令」は科学ジャーナリスト賞2012を受賞した。

著書に「くらべてわかる地球のこと 北極と南極のへえ〜」（学研、2020年小学校中学年課題図書）、「南極で宇宙をみつけた!」「こちら南極 ただいまマイナス60度」（草思社）、共著で「テロリストの軌跡」（同）、「南極ってどんなところ?」（朝日新聞社）、「プロメテウスの罠」（Gakken）など。

「南極プロジェクト」<https://www.asahi.com/special/nankyoku/>

X（旧ツイッター） <https://twitter.com/YumiPolar>